

健診のオプション検査

乳がん検診 子宮がん検診 脳検査

でわかること

各種健診を受ける際、特定の病気の有無や特定の臓器の状態を追加で調べることができます。それが、オプション（追加）検査です。

当組合員の方々が契約医療機関で健診を受ける場合、補助を受けることができるオプション検査は、乳がん検診・子宮がん検診・脳検査の3項目です。オプション検査の意味を知り、病気の早期発見のためにもぜひご活用ください。

乳がん検診

食の欧米化などにもない、日本では乳がんの発症率が上昇しています。乳がんの検査は、女性の場合40歳以降は毎年受けておきたい検査の一つですが、近親者に乳がんを患った人がいたり、気になる症状がある場合には、30歳代でも一度は受けておくようにしましょう。

乳がん検査は、主に次のような方法で行われます。

①視触診

医師が乳房を観察し、手で直接触れて、乳房やリンパ節の状態を確認する検査です。

乳房の中に気になるしこりがないか、くぼみやひきつれといった乳房の変形がないか、首や脇の下のリンパ節に腫れがないかといったことを調べます。

②乳腺超音波（エコー）検査

プローブと呼ばれる器具を乳房にあて、超音波の反響を映像化してモニターに映し出します。放射

線被曝の心配がないことから、超音波検査は妊娠中でも受けることができます。

超音波検査により、しこりの形状や周辺の状態など様々な観点から検討し、それが良性のものなのか悪性のものかを判断します。

③マンモグラフィー

専用の装置を用いて乳房をはさみ、その状態でX線撮影を行う検査です。時間は数秒程度しかかかりませんが、圧迫されるときに乳房に痛みを感じる場合があります。

X線で撮影するため放射線被曝の心配はありませんが、極めて微量で、授乳中でも検査は可能です。

マンモグラフィ検査を行うと、視触診や超音波検査では見つけにくい小さな腫瘍や石灰化を伴う腫瘍を発見することができます。

乳がんは外部から触れることができる唯一のものともいわれています。そのため健診による検査だけではなく、しこりがないかを確認する自己触診を行う習慣を身につけましょう。

子宮がん検診

主に、子宮頸がんの早期発見のための検査です。子宮頸がんは、性行為によるヒトパピローマウイルス感染が確立したりリスク要因です。20歳代〜30歳代の若年層で罹患率が増加傾向にあるため、若い女性でも受けておきたい検査です。

子宮がん検査は、主に次のような方法で行われます。

①内診

主に膣内と子宮の入り口を調べる視診と、卵巣や子宮など内性器の状態を調べる触診があります。この検査によって、子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣腫瘍などが発見できます。

②子宮頸がん検査

子宮頸部から細胞を採取して顕微鏡で調べます。細胞の採取に際してはほとんど痛みはなく、数秒で終了します。

20歳以上の女性では、2年に1回、子宮頸がん検査の受検が推奨されています。

